



もとめる会通信

2012年度
第2号
2012/10/16

ゆきとどいた教育をもとめる岡山県民の会(事務局:086-272-2245 岡山高教組)

県知事候補へ公開質問状を送付! . . . 県知事選投票日 10/28 (日)

教育条件整備に向けての候補者の姿勢は?

10月28日は県知事選投票日です。学校の暴力事件の多さ、不登校の発生率、学力問題など教育問題への県民の関心は高まっています。もとめる会では、少人数学級実現や、教育費の保護者負担軽減など、教育条件整備にかかわって、各候補者に公開質問状を送りました。県下各所での豊かな討論、議論、雑談を期待し、寄せられた回答を紹介します。

岡山県の教育条件整備に関する公開質問状について(お願い)

県知事選挙に向けてご活躍のことと存じます。

さて、私たち「ゆきとどいた教育をもとめる岡山県民の会」は教育条件の整備をめざして、請願署名を集め、岡山県議会、国会へ提出してきました。今年度で24年目を迎え、これまで全国で集めた署名は累計4億1千万筆を越えています。私たちは子どもたちにゆきとどいた教育を保障するために「30人以下学級の早期実現」「教育費の保護者負担の軽減」「障害児学校の教育条件整備」などを求めてとりくみをすすめてまいりました。

岡山県においては、国の施策と県独自の施策により、小学校1年生から中学校3年生までの35人学級が可能となり、一定の教育条件整備がはかられてきました。しかし、2010年度小中高の暴力行為と小学校の不登校の発生率が全国最悪となり、また高校授業料無償化が始まったとはいえ、不安定雇用の拡大など現下の経済情勢の中で家庭の経済状況が悪化、教育の機会均等が脅かされ、子どもの学ぶ権利が奪われるなど、県民の教育条件が後退しかねない状況も生まれています。

こうした状況のもとでおこなわれる今回の選挙は、岡山県の教育問題を、子ども・保護者・県民の立場から再考し、県民本位の教育条件整備をすすめる絶好の機会と考えます。

つきましては、貴予定候補の教育政策をお聞きし、保護者・教職員と県民に広くあきらかにすることで、実りある討論をよびかけていきたいと思っておりますので、下記のとおりご協力をお願いいたします。

なお、参考までに今年度の請願署名用紙と署名宣伝資料を同封いたします。ご高覧下さい。



★9月7日、文科省は13年度概算要求で、新たな定数改善計画を策定!★

「2013年度から5年間で、小3～中3まですべてで35人以下学級を実施」「高校無償化維「私学助成の水準維持」など、不十分とはいえ父母・国民の要求に応える予算要求が盛り込まれました。予算化実現に向けて、署名集約、世論の力で後押ししていきましょう!

各候補の公開質問状回答一覧 (左から届け出順)

	大西幸一	伊原木隆太	一井暁子	山崎俊一郎
1. 都道府県独自の少人数学級が広がってきましたが、小・中学校、高等学校での30人以下学級実施について、どのような政策をお持ちでしょうか。	学校の荒れ、学力低下、不登校の問題など、今岡山県の教育が抱える問題の多くは、学校現場が余裕を失っていることに大きな原因があります。正規教員を増やし、学校現場が余裕を取り戻し、子どもに向き合える時間を増やします。また、学校、地域、家庭をつなぐスクールソーシャルワーカーの増員を図ります。	教育の問題は最も重要だと考えています。状況をつかんだ上でしっかり考えていきたいので、現時点での公開質問状への回答は控えさせていただきます。	クラス担任の拡大(小2と中1を2人に)により、きめ細かい指導や、きちんとした生活態度を身につけさせることを、まず始めます。	今回の選挙では、財源確保のため重点課題として、5つに絞った〈五大マニフェスト〉を掲げています。その中の1つとして教育問題を掲げています。それ以外の事は、マニフェストと勘違いされては困るので言及したくありません。財源確保のためには、五大マニフェスト以外は予算を削減する事もあります。具体的にどここの予算を削るかは、県知事になった後に県議会で話し合うことになると思います。教育問題については『教員の増員をして、きめ細かい指導ができるようにする。活躍の場を創出をして、生徒のやる気を引き出す。』を掲げています。(FAX回答を転載)
2. 高校授業料実質無償化3年目を迎えています。不安定雇用の拡大など近年の経済情勢の中、教育の機会均等はますます脅かされています。さらなる教育費の保護者負担軽減についてどのような政策をお持ちでしょうか。	全国で150万を超える小中学生が就学援助制度を利用しています。家庭の経済条件の悪化は予想以上にすすんでいます。どの子にも教育の機会均等を保障し、しっかりした学力をつけていくことに責任を持ってとりこんでいきます。		教育費の保護者負担の軽減は、重要な課題であり、今後、ていねいに議論していきたいと考えています。	
3. 給付制奨学金を県独自で整備する。また、高校生への給付制奨学金制度の創設を国に求める、などの考えはお持ちですか。	高校教育は今や準義務教育と化している。岡山県のどの地域に生まれても子どもたちが学びの機会を失うことがないように、奨学金制度の充実を図っていきます。		高校、高等教育への進学機会の支援は、重要な課題と考えています。	
4. 特別支援学校の過密・過大化がすすんでいます。岡山県の障害児教育の充実についてどのような政策をお持ちでしょうか。	倉敷地区への新設校設置の予定はありますが、生徒数の増加により、岡山市では依然教室が足りない状況が続いており、解決に向けて条件整備が必要です。また空調やエレベーターの設置など不十分な施設・設備の改善にとりくみます。		特別支援学校の新設を含む、障害児学校の充実は、重要な課題と考えています。	
5. 私学助成について、どのような政策をお持ちでしょうか。	経済的条件により学びの機会が奪われることがないように、従来の私学助成をより充実・発展させていきたい。		私学助成費については、学校教育の中で役割分担(特色ある教育など)、公立学校との整合性を勘案し、ていねいに議論しながら検討していきたいと思っています。	

